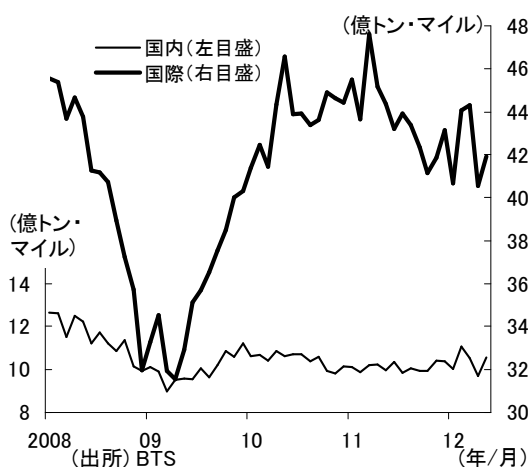




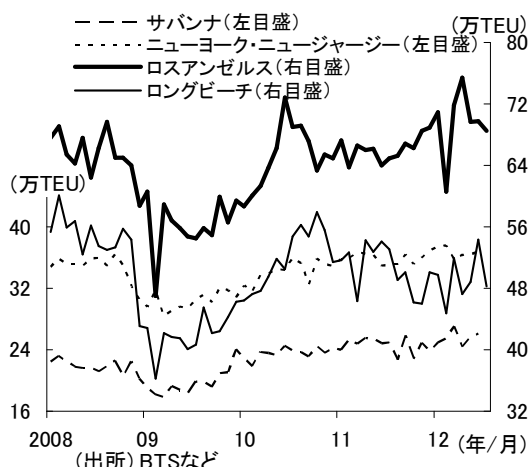
アメリカ物流に翳り ～ 調整圧力拡大の兆し ～

- (1) アメリカ物流動向に翳り。まず航空貨物をみると国内が昨年初来一進一退で推移するなか、国際貨物が昨春来減少（図表1）。昨年末から底入れの兆しがみられたものの、本年4月大幅減。2月が閏年要因で嵩上げされた点を加味すると、航空貨物は本年入り後、再び減勢に転じた可能性。
- (2) 次いで水運では主要4港に焦点。全米コンテナ輸送の過半を占め、加州2港は7月値が公表済みなど速報性具備。サバンナ港とニューヨーク・ニュージャージー港は一進一退（図表2）。一方ロングビーチ港は昨年末を底に本年入り後、緩やかながら増勢転換。しかし、主因は空コンテナの増加で積載コンテナでは横這い。さらに全米最大のロスアンゼルス港は4月をピークに減勢。積載ベースでみるとロスアンゼルス港の輸出コンテナは昨秋がピークで昨年末来、緩やかな減勢。総じてみれば本年初をピークに弱含みへ。
- (3) 鉄道貨物も軟調（図表3）。本年初にはリーマン・ショック以前の2007～08年の水準まで回復。しかし、1月半ば以降、再び後退。07～08年との乖離をみると、今春までギャップが拡大し翳りが強まった後、4月上旬を底として次第に乖離幅が縮小。再び盛り返すとの期待が広がったものの、7月半ばから月末、再び乖離拡大し、10～11年とほぼ同水準で推移。
- (4) 最後に自動車運行距離をみると、依然低水準（図表4）。ガソリン価格が低下して本年5～6月、若干増加したものの、昨年後半を除けば、引き続きリーマン・ショック後の最低圏内。ちなみに直近6月値はリーマン・ショック以前では04年8月以来の水準。運輸指標は景気動向、とりわけ財セクターの経済情勢と連動する有力なインディケーター。そうした観点からみると、少なくとも同国財セクターで調整圧力が広がっている公算大。

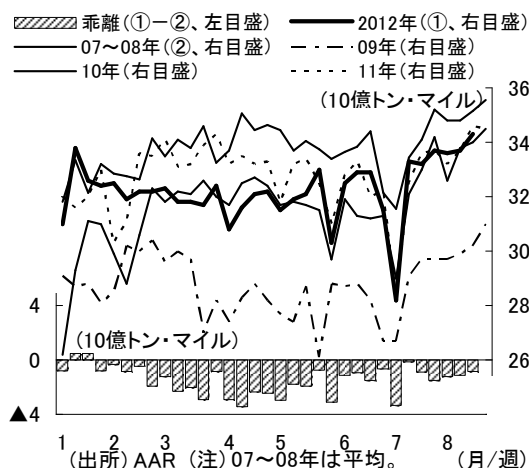
（図表1）アメリカの航空貨物輸送量（季調済）



（図表2）主要4港のコンテナ輸送量（季調済）



（図表3）鉄道貨物輸送量



（図表4）自動車運行距離（年率）

